

令和2年度

事業報告書

(2020年4月1日～2021年3月31日)

公益財団法人 浜松国際交流協会

目次

事業実施の背景と取り組み	3
事業報告 多文化共生のまちづくり	
1. 相談事業	5
① 【コロナ関連】外国人市民のための生活相談（市委託：多文化共生総合相談ワンストップ事業）	
② 【コロナ関連】外国人市民への特別定額給付金の申請補助業務	
③入管ワンストップ型相談コーナーの運営（他機関連携事業）	
④出張相談（市委託：多文化共生総合相談ワンストップ事業）	
⑤中国残留邦人支援事業（市委託：福祉総務課）	
⑥法律相談（市委託：多文化共生総合相談ワンストップ事業）	
⑦行政書士相談（市委託：多文化共生総合相談ワンストップ事業）	
⑧税務相談（市委託：多文化共生総合相談ワンストップ事業）	
⑨ 年金相談（市委託：多文化共生総合相談ワンストップ事業） ★新規	
⑩メンタルヘルス相談（市委託：精神保健福祉センター）	
⑪ 外国人雇用相談（市委託：産業総務課） ★新規	
⑫ソーシャルワーク研修（市委託：多文化共生総合相談ワンストップ事業）	
⑬コミュニティ・エンパワメント（市委託：多文化共生センター事業）	
⑭HICE 相談員を対象とした研修（市委託：多文化共生総合相談ワンストップ事業）	
2. 日本語学習支援事業	12
①日本語学習支援講座（市委託：外国人学習支援センター事業）	
②日本語学習等支援者養成講座（市委託：外国人学習支援センター事業）	
③地域日本語学習支援事業（市委託：外国人学習支援センター事業、自主事業）	
④ 浜松市における地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業（文化庁事業）	
⑤外国人学校への日本語教師派遣（市委託：外国人学習支援センター事業）	
3. 外国につながる次世代支援事業	20
①外国人の子どもへの不就学ゼロ作戦（市委託：外国人学習支援センター事業）	
②定住外国人の子どもへの就学促進（市委託：外国人学習支援センター事業）	
③外国につながる青少年のキャリア支援（市委託：外国人学習支援センター事業）	
4. 多文化防災事業	24
①災害時多言語ボランティア養成研修（市委託：多文化共生センター事業）	
②災害時多言語支援センター設置訓練（市委託：多文化共生センター事業）	
③災害・防災情報の提供（市委託：多文化共生センター事業）	
④緊急情報の提供体制づくり（市委託：国際課）	
グローバル感覚に優れた人づくり	
1. 地域共生事業（市委託：多文化共生センター事業）	26
①各地域への個別支援	
② かわらばん「おとなりさんは外国人！」発行 ★新規	

③ブリッジビルダー育成	
2. 多様性を生かしたまちづくり事業	27
①はままつ多文化共生MONTH(月間)事業 (市委託：多文化共生センター事業)	
②文化・スポーツ紹介 (市委託：多文化共生センター事業)	
③地域活性化事業 (市委託：多文化共生センター事業)	
④フェスタ・サンバの運営 (実行委員会形式) *コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	
3. グローバル人材の育成と活用	28
①地球人教育出前講座及びコーディネート (市委託：多文化共生センター事業)	
②グローバル人材セミナー (市委託：多文化共生センター事業、自主事業)	
③国際理解教育講座 (自主事業)	
④第11回はままつグローバルフェア オンライン (自主事業)	
⑤多文化体験・交流事業 (市委託：外国人学習支援センター事業)	
⑥ホストタウン・ボランティア養成のための講座 (市委託：外国人学習支援センター事業)	
4. 国際交流・国際理解事業	
1) 外国語講座	33
①国際交流のための外国語講座 (自主事業)	
②国際交流のための外国語サロン (自主事業)	
2) 交流イベント(自主事業)	34
①チャリティ・ポルトガル語講座 ★新規	
②教科書に載っていないバングラデシュ ★新規	
③ブラジル留学・日系社会体験記 ★新規	
④知ってよ！コロンビア ★新規	
5. 担い手の育成：ボランティア活動支援事業 (自主事業)	34
①HICE ボランティアバンクの運営	
6. 担い手の支援：国際交流活動支援事業	35
①多文化共生・国際交流推進事業費補助金の交付 (浜松市補助金)	
②天竜地域事業 (市委託：外国人学習支援センター・自主事業)	
③セミナールームの活用 (市委託：多文化共生センター事業)	
④多文化共生・国際交流活動支援事業 (市委託：多文化共生センター事業)	
7. 情報収集・提供事業	37
①機関紙 HICE NEWS の発行 (自主事業)	
②ホームページの運営 (自主事業)	
③Facebook の運用 (自主事業)	
④HICE info メールによる情報配信 (自主事業)	
⑤CIR NEWS の配信 (自主事業)	
⑥情報カウンターの設置 (市委託：多文化共生センター事業)	

事業実施の背景と取り組み

2020年度は世界的な新型コロナウイルス感染症の蔓延により、全ての社会経済活動が影響を被った年であった。年度当初に第一回の緊急事態宣言が発令され、全国の学校が休校となり、国内外のほぼ全ての往来が停止した。日本から母国に出国できない、海外から日本へ帰国できないなどの事例も急増し、政府から出入国に関わる臨時的な措置や取り扱いが矢継ぎ早に発出された。

宣言の発令とあいまって急激な景気後退が生じ、宣言解除後の5月くらいからは非正規雇用者の雇止めが急増、政府による特別定額給付金の給付をはじめ、住宅確保給付金や緊急小口融資、雇用調整助成金の支給拡大などの緊急経済対策が打ち出された。

夏から秋にかけて感染者数がやや落ち着くとともに、経済活動も回復基調に向かい、雇用環境も一定程度の改善傾向となった。一部では人手不足となった業種もあり、また、技能実習生の新規入国が停止したことなどにより、定住外国人の需要が増加した側面もあった。しかし、年末にかけて第三波が猛威を振るうと再び感染者が増加し、さらに年度末から新年度にかけては変異ウイルスによる第四波が到来するなど、新型コロナウイルスによる影響は、依然として先の見通せない状況が続いている。

こうした状況の中、当協会は新型コロナウイルス経済対策の申請手続きや情報提供を行う多言語支援事業を市から受託することとなった。また、失職して失業手当をもらいながらこの機に日本語のスキルアップを目指す外国人も増加し、日本語教室には例年の倍近い人数が受講した。新規事業として開設した「外国人雇用サポートデスク」も開設早々から相談者が多数訪れ、また、職を失わないまでも、休業等により給料が減り、生活が困窮するといった外国人のために、関係機関との連携による「フードバンク」などの支援事業も強化した。

対面でのイベントや講座が制限されたことから、各種セミナー、会議から日本語教室に至るまでオンライン対応を進めた。特に日本語教室については、講師のオンラインスキルの向上を図りつつ、受講生のニーズも踏まえたハイフレックスでの開講方式を手掛けた。さらに、常葉大学との連携により、日本語教授法を学ぶ学生らと協働してオンライン教室を試行するなど、ウィズコロナの時代に対応した新たな試みに取り組んできた。

また、例年セミナー方式で行っている自治会向け啓発事業の代替として、情報誌「街のかわら版：おとなりさんは外国人」を作成・発行した。フィリピン、ベトナム、スペイン語など多言語相談においても、動画やFacebook等のSNSによる情報ツールを活用することで、従来と異なる層へのアプローチが可能となるなど、情報発信力の強化につながった。初めてオンライン開催したグローバルフェアでは、他団体からの質の高い動画作品の提供や、職員のスキル向上につながるなど、今後の当会における情報発信のヒントを得ることとなった。

この他、「雇用サポートデスク」による人材マッチングが中小企業の外国人材の採用を促すとともに、やさしい日本語研修などを通じて異文化理解に対するニーズが高まるなど、今後の自主事業の方向性も明らかとなりつつある。

公益 1 多文化共生のまちづくりと グローバル感覚に優れた人づくり

多文化共生のまちづくり

【重点】相談事業 p. 5

多言語生活相談、出張相談、ワンストップ相談(入国管理)、法律相談・行政書士相談・税務相談、中国残留邦人支援、メンタルヘルス相談、ソーシャルワーク研修、

★新規：雇用相談、特別定額給付金の申請補助業務、年金相談

【重点】日本語学習支援事業 p. 12

日本語教室、支援者養成講座、教職員多文化共生講座、地域日本語学習支援
浜松市における地域日本語教室の総合的な体制づくり推進

外国につながる次世代支援事業 p. 20

外国人の子どもの不就学ゼロ作戦、定住外国人就学支援教室、キャリア支援

多文化防災事業 p. 24

災害時多言語支援センター設置訓練、災害時支援ネットワーク構築
緊急情報の提供体制づくり

【重点】グローバル感覚に優れたひとづくり

地域共生事業 p. 26

地域共生活動支援、ブリッジビルダー育成、かわら版発行

多様性を生かしたまちづくり事業 p. 27

多文化共生 MONTH、文化・スポーツ紹介、地域活性化事業
フェスタ・サンバの運営（コロナ感染症予防のため中止）

グローバル人材の育成と活用 p. 28

グローバル人材セミナー、地球人教育出前講座、国際理解教育講座、
ホストタウン・ボランティアセミナー、グローバルフェア

国際交流・国際理解事業 p. 33

国際交流・国際理解イベント、外国語講座、フェアトレード啓発

地域創造の担い手の育成と支援 p. 34

ボランティアバンクの運営、補助金交付他

【重点】情報収集・提供 p. 37

HICE NEWS、ホームページ、Facebook、メール配信、情報カウンター

多文化共生社会の推進

多文化共生センター

外国人学習支援センター

事業報告

多文化共生のまちづくり

1. 相談事業

① 外国人市民のための生活相談（市委託：ワンストップ事業）（7,874件）

■ 言語別件数内訳

（件）

言語	曜日	時間	相談件数
ポルトガル語	毎日	9:00～17:00	3,331
スペイン語	火・木・日	13:00～17:00	641
タガログ語	火・木・土	13:00～17:00	466
中国語	土曜日	13:00～17:00	81
ベトナム語	火・木・土	13:00～17:00	180
インドネシア語（7月～）	土曜日	13:00～17:00	13
英語	月曜日～金曜日	13:30～16:30	288
日本語	毎日	9:00～17:30	2,871
その他			3
合計			7,874

*その他はタイ語

■ 問い合わせ手段

（件）

来訪	電話	その他（手紙、メール等）	合計
1,876	4,622	1,376	7,874

■ 内容別件数内訳

（件）

内容	件数	内容	件数
入管手続	329	日本語学習	231
雇用・労働	1,927	防災・災害	45
社会保険・年金	106	住宅	107
税金	230	結婚・離婚・DV	115
医療	130	交通・運転免許	86
出産・子育て	48	通訳・翻訳	276
子どもの教育	131	その他*	4,113
合計			7,874

*その他は、交通事故、金融、人間関係等が含まれる

■ 相談内容と傾向

新型コロナウイルス感染症拡大により、4月～7月にかけては帰国・入国できない、雇止め、休業等の雇用に関する相談や収入の減少による家計不安の相談、特別定額給付金支給前後についてはその問合せ、12月以降はコロナ感染そのものへの不安など、コロナウイルスに関連する相談が多くを占めた。スペイン語、タガログ語、ベトナム語の相談員の配置日数を増やし、多言語のFacebookによる情報発信を強化、特に動画を作成して公開するなどにより、相談事業の認知が進んだ。

コロナ関連以外の相談としては、高校・大学進学にあたり入学・進学費用が不足する、奨学金の情報、家庭不和による離婚、子どもの養育費の問題などが比較的良好に見られる。

定住者・永住者などの身分系の在留資格を持つ外国人からの相談が最も多いが、技術人文知識国際業務や家族滞在の在留資格を持つ外国人からの相談も一定程度ある。技能実習生からの相談は直接的に来ることはほとんどないが、多言語相談員のつながりで間接的に相談が持ち込まれることがある。技能実習生に相談業務の周知と利用の促進を行うことが課題の一つである。

②【コロナ関連】外国人市民への特別定額給付金の申請書補助業務

■多言語により特別定額給付金の申請書の記入補助を行った。

期間：5月29日～9月30日

人員配置：多言語対応できる職員を配置して対応（ポルトガル語、スペイン語対応）

件数：355件

■多言語により特別定額給付金についての周知などを行った。

Facebook：8言語、計65回発信、88,156リーチ数

動画閲覧：6,655回再生（ポルトガル語3,018回、タガログ語1,418回、英語875回、

スペイン語654回、インドネシア語328回、ベトナム語268回、中国語94回）

■外国人支援団体への活動支援

10団体に対し、特別定額給付金の申請支援を行うための助成を行った。

③入管ワンストップ型相談コーナーの運営（他機関連携事業）（227件）

入国管理局との連携で専門相談の窓口を開設。

毎週水曜日 9：00～12：00、13：00～17：30 相談件数：延べ227件

④出張相談（市委託：ワンストップ事業）

・7月17日（金）ブラジル総領事館における防災リーダー会議において多文化共生センターで行っている防災事業について説明（参加者：10人）。

・7月18日（土）ペルー出張領事においてブース出展（相談件数：25件）

・8月4・5・6・14日 外国人経営店舗訪問（4日間）ブラジル人、ベトナム人、ペルー人、フィリピン人、インドネシア人等が経営する雑貨店やレストランを訪問し、新型コロナウイルス感染症対策の情報提供や感染症の拡大に伴い仕事を失うなどして生活が苦しんでいる人や事業者向けの支援制度等について情報提供した。（参加者：20人）

⑤法律相談（市委託：ワンストップ事業）（110人）

弁護士による法律相談 相談者数は延べ110人

毎月最終木曜日、土曜日 計22回開催

協力 静岡県弁護士会浜松支部、関東弁護士連合会（11月の拡大法律相談）

⑥行政書士相談（市委託：ワンストップ事業）（54人）

行政書士による相談 相談者数 延べ54人

毎月木曜日および土曜日 計22回開催

協力 静岡県行政書士会西遠支部

⑦税務相談（市委託：ワンストップ事業）（69人）

日時 令和3年1月30日（土）9：30～16：30

令和3年1月30日（土）9：30～16：30

内容 外国人を対象に、通訳（ポルトガル語、タガログ語）をつけてスムーズに確定申告が行えるよう支援した。

参加者 相談者69人、スタッフ・通訳10人、税理士10人 合計89人

協力 東海税理士会浜松西支部

⑧年金特別相談会（市委託：ワンストップ事業）（7人）

日時 令和2年11月26日（木）13：00～16：00

内容 免除申請方法、ブラジルで年金を受け取るための手続きなど

参加者 相談者7人

協力 東・西年金事務所

⑨中国残留邦人支援事業（市委託事業）（121件）

中国在留邦人とその配偶者で、世帯の収入が一定の基準に満たない者に対し生活支援費を給付する際の業務補助、相談、通訳等の支援のための相談員を配置した。

日 時 週3日 13:00～17:00 (93日)

配置場所 市内区役所（中、南、東、北）

相談員 1人

相談内容 病院にかかる際の言葉の心配、介護サービス申請の支援、子弟の教育や就職など

相談件数 延べ121件

対 象 9世帯12人

⑩メンタルヘルス相談（市委託事業）

心理士2人を配置し、ポルトガル語でのメンタルヘルス相談及び精神科等への同行通訳を行った。

■メンタルヘルス相談

日 時 週5日 9:00～17:00 週2日（火・金）は13:00～20:30

件 数 延べ495件（カウンセリング451件、相談44件）（前年度454件）

[カウンセリング451件の内訳]

相談者実数	145人
新規	99回（22%）
継続	92回（20%）
出身国	ブラジル人388件（86%）、ペルー人54件（12%）、その他9件（2%）
年齢	大人331件（73%） 子ども120件（27%）
時間帯	昼間368件 夜間83件

内 容 子どもや思春期の若者に生じている問題は、父母の夫婦関係の影響であり、結果であることが考えられる。多くの保護者は自身の人生にモチベーションがなく、子どもには要求が強いため、子どもは勉強や将来について興味が持てず、両親を見本として同じことを繰り返すことに疑問を持たない。

課 題 コロナの関係でオンライン（ZOOM）での対応も選択できるようにしたことで、およそ30%がオンライン活用している。便利になったのは事実だが、相談者の中にはプライベートについて意識が薄いこともある（相談者の内密が他者に知られてしまう状況が発生した）。相談者に自身のプライベートを守ることの重要性を指導する必要がある。

■通訳派遣

通訳件数 延べ404件（依頼数459件、うちキャンセル55件）（前年度317件）

内 容 前年に比べて同行通訳依頼数は増えたが新規の件数はあまり変わらなかった。性別については比較的男性がやや多かった。今年度は子どもの発達に困難を抱えるケースが更に目立った。入院のケースは子ども1件、大人2件だった。子どもの入院に関しては児童相談所、教育員会も関わり、かなり深刻なケースであった。（現在入院中）。

依頼元の医療機関数は前年度とほぼ同じであり、一つの医療機関からの依頼が集中したのもほぼ変わらなかった。

受診時の主な訴えは、不安、不眠、無気力感、言葉の遅れ、行動面等が多かった。

特別児童扶養手当を申請するための受診と心理士との相談が増える傾向にある。

課 題 臨床心理士との相談や心理テストを行う回数が増えてきているので、一人に対しての対応時間が長くなる傾向にある。

日本語がかなり分かる患者や発達に困難を抱える子どもの保護者もいるので、通訳なしでの受診を提案しても通訳者がいないと不安だから来てほしい、またドクターからも心配だから来てほしいと要望があるため、取りやめることが難しい。

■発達に困難を抱える外国人の子どもと保護者の支援者向け研修会

■少数言語通訳者養成講座

【第1回～4回】

- 日時 ① 7月18日(土) 13:00～15:00 「子どもの発達と心理的問題」
 ② 7月18日(土) 15:30～17:30 「福祉支援制度の意味と活用」
 ③ 7月25日(土) 13:00～15:00 「子どもの発達と心理検査 I」
 ④ 7月25日(土) 15:30～17:30 「子どもの発達と心理検査 II」

講師 山崎知克氏(浜松市子どものこころの診療所 所長・医師)、
 野村師三氏(浜松市子どものこころの診療所 ソーシャルワーカー)
 中林睦氏(浜松市発達医療総合福祉センター 臨床心理士)

参加者 ①一般支援者：延べ100人(国籍 日本：82人 ブラジル：13人 ペルー：1人
 中国：3人 フィリピン：1人) 録画配信

②少数言語通訳者の候補者：延べ11人(言語 中国：3人 ベトナム：3人 フィリピン：2人 インドネシア：1人 ブラジル：1人 英：1人) 会場にて受講

【第5回】

日時 ⑤ 11月28日(土) 13:30～15:30 「外国人の子どもたちの言語発達を考える
 言語聴覚士に聞く！」

講師 鈴木美佐子氏(アメリカ 言語聴覚士協会認定スピーチランゲージパソロジスト・言語聴覚士)

参加者 ①一般支援者：延べ126人(言語 日本語：63人 ポルトガル語：26人 英語：19人
 スペイン語：7人 中国語：4人 ベトナム語：3人 タガログ語：2人 インドネシア
 語：1人 韓国語：1人) オンライン・録画配信

②少数言語通訳者の候補者：延べ8人(言語 中国：2人 タガログ：2人 ベトナム：1人
 インドネシア：1人 ブラジル：1人 英：1人) 会場にて受講

【第6回】

日時 ⑥ 12月5日(土) 13:30～15:30 「通訳者研修」

講師 大野直子氏(順天堂大学大学院医学研究科/国際教養学部 准教授)

参加者 少数言語通訳者の候補者：延べ9人(言語 中国：3人 ベトナム：1人 フィリピン：2人
 インドネシア：1人 ブラジル：1人 英：1人) 会場においてオンライン
 受講

■メンタルヘルスに関する啓発講習会(小集団活動)

テーマ「社交不安障害」

日時 3月20日(土) 11:00～12:30

場所 多文化共生センター

参加者 ブラジル人 2人

内容 ディスカッション(アイデアと経験を語り合う)

浜松いのちの電話のポルトガル語相談員を対象として、メンタルヘルスに関する研修会を実施。

日時 1月22日(金) 19:00～21:00 テーマ「HICEのメンタルヘルス相談」・「攻撃行動」

2月26日(金) 19:00～21:00 テーマ「援助する面接」

場所 いのちの電話

参加者 11人

■ブラジル人託児所児童の保護者に対する養育能力向上のための講習会

日時	場所	参加者数
12月4日(金) 9:00～11:00	ブラジル人託児所	子ども33人
1月22日(金) 9:00～11:00	ピメンティニャ・キッズ	スタッフ3人 経営者2人

1月25日(月) 9:00~11:00 3月15日(月) 9:00~11:00	ブラジル人託児所 ラピス・デ・コロ	子ども62人 スタッフ8人 経営者1人
内容：心理分析士 デビデ・ヴァンデル・ルイス氏によるブラジル人託児所スタッフや経営者の悩み相談対応及び子どもの様子観察 成果：2018年より託児所への訪問を行っており、当時に比較するとかなり改善されている様子が見られた。教育免許を持ったスタッフが増え、列に並んで手洗いなど行っている。心理分析士とスタッフの信頼関係も築かれ、訪問時には気楽に相談するようになってきている。		

①外国人雇用相談（市委託：産業総務課）

浜松地域の産業を担う人材・労働力を確保するため、市内企業等を対象に外国人労働者の受け入れに関する相談及び外国人の就労に関する相談窓口を設置し、求人と求職のマッチングを行った。

期 間 4月1日～3月31日、10月16日～3月31日（企業開拓事業追加）

相談員 1人（雇用相談員）、2人（企業開拓支援員）

■全体件数

（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規求職登録者数	12	15	22	9	9	59	15	12	7	26	4	9	199
HICE紹介件数	0	1	3	7	5	17	9	4	8	3	9	8	74
採用件数	0	0	0	4	0	6	2	4	0	1	4	7	28
登録月別支援終了者数（就労中など）	5	9	11	7	3	9	6	6	8	7	1	4	76
新規求人企業登録数	5	6	5	10	2	1	3	5	8	4	2	4	55

■採用件数（28人）の内訳

雇用形態	人数
正社員	13
準社員	3
アルバイト（有期雇用）	7
パート（無期雇用）	5
計	28

性別	人数
男	15
女	13
計	28

国籍	人数
ブラジル	8
インドネシア	4
フィリピン	3
バングラデシュ	3
ペルー	3
ベトナム	2
アメリカ	1
アンゴラ	1
ネパール	1
インド	1
日本（外国ルーツ）	1
計	28

業種	人数
製造業	8
サービス業	6
教育	3
農業	3
情報通信	2
金融業	2
小売業	2
医療・福祉	1
建設業	1
計	28

年代	人数
20代	13
30代	4
40代	6
50代	3
60代	2
計	28

採用前在留資格	人数
永住者	9
定住者	7
留学	4
特定活動	4
技・人・国	2
教授	1
日本人配偶者	1
計	28

職種	人数
専門的・技術的 職業従事者	14
包装等従事者	4
事務従事者	3
農林漁業従事者	3
サービス職業従 事者	3
建築従事者	1
計	28

■正社員・準社員（16人）の内訳

	性別	年代	国籍	業種	職種	採用前在留資格	備考
1	男	20	ブラジル	金融	技術職	定住者	準社員・就労中（市内定住者・無職から就職）
2	女	20	ブラジル	金融	営業事務	永住者	準社員・2021年2月末で退職（自己都合）
3	女	40	ブラジル	製造業	食料品製造	永住者	準社員・2020年12月で退職（正社員職へ転職）
4	男	20	ネパール	製造業	技術職	留学	2021年4月入社（市内専門学校新卒）
5	男	20	インドネシア	製造業	技術職	留学	2021年秋入社予定（市内大学院新卒） インターンシップ経由
6	女	30	ブラジル	サービス	営業事務	定住者	就労中（市内定住者・無職から就職）
7	男	20	インド	情報通信	ITエンジニア	特定活動	2021年5月入社予定（市内大学院新卒）
8	男	20	インドネシア	製造業	技術職	特定活動	2021年4月入社（市内大学院新卒）
9	男	20	ベトナム	建設	技術職	技・人・国	2021年4月入社（県外から市内へ転職）
10	男	50	フィリピン	教育	語学講師	技・人・国	2021年4月入社
11	男	20	バングラデシュ	製造業	技術職	特定活動	2021年4月入社（市内大学院新卒） インターンシップ経由
12	女	20	バングラデシュ	製造業	技術職	特定活動	2021年4月入社（市内大学院新卒） インターンシップ経由
13	男	30	ペルー	サービス	営業事務	定住者	2021年4月入社（市内定住者・契約社員より正社員へ転職）
14	女	20	インドネシア	製造業	技術職	教授	2021年春入社予定（市内大学院新卒） インターンシップ経由
15	男	20	ベトナム	情報通信	ITエンジニア	留学	2021年秋入社予定（市内大学院新卒） インターンシップ経由
16	男	20	バングラデシュ	製造業	技術職	留学	2021年秋入社予定（市内大学院新卒） インターンシップ経由

⑫ソーシャルワーク研修（市委託：多文化共生センター事業）（116人）

内 容 市や各機関・企業等の通訳や相談員が、多種多様な通訳場面や相談に対応するために、専門的知識を習得し、外国人市民の生活支援にあたるためのノウハウや心構えを学ぶ研修を行った。

対 象 各機関で外国人の通訳や相談にあたるバイリンガル人材

（ブラジル、ペルー、中国、フィリピン、インドネシア、日本、ベトナム）

日時	テーマ	講師	参加者数
9月19日（土） 14:00～16:00	交通安全について	早乙女薫（浜松市中央警察署交通安全第一課主任主幹）	17人
10月31日（土） 14:00～16:00	労働契約について	尾崎剛史（法テラス浜松弁護士）	7人
11月27日（金） 10:00～11:30	市役所ポルトガル語通訳者対象研修	ヴァンデル・デビデ（ブラジル人心理分析士）	15人
12月5日（土） 13:30～15:30	一般向け通訳者研修	大野直子（順天堂大学）	15人
1月10日（日） 14:00～16:00	介護保険制度について	島村フミオ（社会労務士） 在浜松ブラジル総領事館職員	51人
2月27日（土） 10:00～11:30	難民支援について学ぶ	鶴木由美子（NPO 法人難民支援協会）	11人
合計			116人

⑬コミュニティ・エンパワメント（市委託：多文化共生センター事業）（48人）

内 容 国籍別・言語別にそれぞれのニーズに応じてテーマを設定し、各言語によるセミナーを行った。

対 象 各外国人コミュニティの一般人

日程	テーマ	講師	参加者数
8月22日（土） 14:00～15:30 会場：多文化共生センター	（インドネシア人対象） 「防災ワークショップ」	HICE 職員・防災リーダー	18人
11月29日（日） 14:00～17:00 会場：多文化共生センター	（ブラジル人対象） 「コロナの中でストレスを乗り越える～メンタルヘルスセミナー～」	ヴァンデル・デビデ （ブラジル人心理分析士）	18人
12月13日（日） 10:00～11:30 会場：多文化共生センター	（ブラジル人対象） 「防災セミナー」	HICE 職員	12人
合計			48人

⑭HICE 相談員を対象とした研修（内部研修）（24人）

日程	テーマ	講師	参加者数
11月5日（木） 14:00～16:00	日本の年金制度について	日本年金機構	8人
1月23日（土） 14:00～16:00	在留資格について行政書士から学ぶ	守屋和弘（行政書士）	8人
2月27日（土） 10:00～11:30	難民支援について学ぶ	鶴木由美子（NPO 法人 難民支援協会）	8人
合計			24人

2. 日本語学習支援事業

①日本語学習支援講座（市委託：外国人学習支援センター事業 5,348人（前年度2,995人）

在住外国人に対して日本語支援を行う地域日本語教室。日常生活を行う上で必要な日本語コミュニケーション能力を学ぶ初級クラスと、ひらがな、カタカナ、初級レベルの漢字、読みもの等を学ぶ読み書きクラスを開催。

協働団体：With U-Net/受講者数 延べ5,348人

■初級クラス

	講座名	回数	日程	受講者
第1期	初級	91	4月13日～10月1日	1,887人
第1期	初級（特別措置）	32	4月20日～5月18日 6月5日～9月25日	139人
第2期	初級	90	10月6日～2月24日	1,655人

新型コロナウイルス感染症拡大のため、4月15日～5月18日は授業を実施しなかった。

5月19日～5月29日は、ひらがなカタカナのオンライン授業を実施した。（6月1日以降は、対面授業を再開。授業時間を3時間から1.5時間にして、学習者を2グループに分けて授業を実施した）

【特別措置】

4月20日～5月18日は、窓口にて個別のひらがなカタカナの宿題支援を実施した。

6月5日～9月25日は、常葉大学との連携事業として話練習のオンライン授業を週1回開催した。

■読み書きクラス

	講座名	回数	日程	受講者
第1期	読み書き	30	6月4日～9月29日	930人
第2期	読み書き	40	10月8日～3月11日	737人

②日本語学習等支援者養成講座（市委託：外国人学習支援センター事業）

■日本語学習支援ボランティア養成講座（オンライン授業）（329人）

地域における日本語学習支援で必要とされる知識や技術を学ぶボランティア養成講座を開催。

協働団体：はままつ国際理解教育ネット、With U-Net、NPO 法人おおさかこども多文化センター、NPO アラッセ、そらの会、KSC 子どもサポーターズクラブ、浜松市教育委員会、ゆうさくコミュニティスクール、U-ToC 外国人サポーター

全16回/各期 年2期

	期間	受講者
第1期	6月1日～10月5日	延べ117人
第2期	11月20日～3月19日	延べ212人
合計		329人

プログラム：日本語文法への入口、異文化理解体験ワークショップ、外国語学習体験、浜松市における外国人児童の現状、ボランティア体験、やさしい日本語実践体験（U-ToC 日本語教室の学習者と防災訓練を体験）

■日本語ボランティア実地研修（35人）

日本語教室を見学し、他者の活動内容や教授技術を学ぶ。

教室後の振り返りに参加し、参考になった点や気付いた点を述べ技術を高め合う。

見学シートを提出し、他者の教室活動を客観的に評価するとともに自己研鑽に努める。

日本語教室・初級クラス	延べ14人
日本語教室・読み書きクラス	延べ21人
合計	延べ35人

■日本語学習支援者スキルアップ講座（250人）

日本語学習支援者を対象とした日本語教育に関する知識を学ぶ講座。全6回

回	日時	内容	講師	受講者
1	8月19日(水) 13:30～15:00	日本語初級レベルのオンライン授業の可能性を探る～教師が感じる課題とオンラインならではの授業とは～	藤本かおる (武蔵野大学グローバル学部日本語コミュニケーション学科)	41人
2	8月25日(火) 13:30～15:00	日本語教室オンライン授業の実践を知る～「できる日本語(初級)」を中心に～	嶋田和子 (一般社団法人アクラス日本語教育研究所)	96人
3	1月22日(金) 13:30～15:00	オンライン授業でも活用できる！地域で学ぶ入門期からの日本語学習教材「きいてまねてはなして」の使い方	安田乙世 (日本語教育支援グループ「ことのは」)	36人
4	1月25日(月) 13:30～15:00	地域の日本語教室で活用しよう！「いんどり生活の日本語」の使い方	梁島史恵 (独立行政法人国際交流基金日本語教育センター)	35人
5	3月16日(火) 13:30～15:00	先輩から学ぶ漢字オリエンテーション&多読	青木悟、加藤弘子、 原田実穂、森田大樹 (With U-Net)	22人
6	3月18日(木) 13:30～15:00	先輩から学ぶ漢字オリエンテーション&多読	渥美仁志、澤柳通恵、 永井操、本城かほる (With U-Net)	20人
合計				250人

■教職員多文化共生講座（130人）

保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校等の教職員（外国人支援者を対象）の夏季集中講座。

共催：浜松市教育委員会「2020年度第4.5回外国人児童生徒指導リーダー研修会」

8月6日(木) 13:55～16:30、8月28日(金) 13:30～16:30

回	時間	内容	講師		受講者
1	13:55～ 14:55	ブラジルの学校と日本の学校の文化の違い	椎木マリナ	セメンチ パラ オフ トゥーロ	34人

2	15:05～ 16:20	「ひょうたん島問題」から多文化共生を考える	鈴木由美恵	浜松国際交流協会	34人
3	13:00～ 13:45	外国人学校「ムンド・デ・アレグリア学校」見学	松本雅美	ムンド・デ・アレグリア学校	31人
4	13:50～ 16:30	マジョリティ側の「特権」を知り、教育現場で生かすには	出口真紀子	上智大学外国語学部英語学科	31人

③地域日本語学習支援事業（市委託：外国人学習支援センター事業、自主事業）

■日本語学習支援団体ネットワーク会議

日本語学習支援団体間の情報の共有や共通課題の克服のためにネットワーク会議を開催。

参加者数 12人 「第1回放課後学習支援団体情報交換会」

回	日時		参加団体	参加者
1	12月25日 (金)	13:30～15:00	浜松市教育委員会、浜松国際交流協会、放課後支援団体（龍の会、浜名小外国人学習ボランティア、KSC子どもサポーターズクラブ、ゆうさくコミュニティスクール土曜学習）	12人

■地域日本語学習コーディネート業務

養成講座修了生による自主グループの立ち上げを支援するとして「おしゃべりタイム」の支援を行っていたが、新型コロナウイルス感染症拡大により、今年度の活動は休止とした。

■日本語学習支援ボランティアコーディネート

日本語ボランティア養成講座修了生の活動支援等 49件

日本語ボランティア養成講座では、修了生を対象に丁寧な活動支援を行ってきた。市内のボランティア団体に養成講座修了生を紹介したり、両者のマッチングに同席したりすることで、修了生がスムーズに活動を始められるようコーディネートした。

■日本語コーディネート（自主事業）

企業への日本語教師募集協力 1件
 地域日本語学習支援団体への日本語教師募集協力 1件
 個人への日本語プライベートレッスンマッチング 1件

■高校生への日本語支援事業（自主事業）

【日本語学習支援教室】

派遣先 静岡県立浜松工業高等学校（定時制）（9月11日～2月19日 計22回）

対象者 1人

派遣者 日本語教師 1人

■地域における日本語学習支援業務

地域や外国人コミュニティとの連携により、ニーズを踏まえた日本語学習支援教室を開催。

○フィリピン人児童・生徒を対象とした就学支援教室（ハロハロ教室）（580人）

協力 NPO法人フィリピンナガイサ

会場 南部協働センター

期間	曜日	時間	参加者（延べ）		
			ボランティア	初期適応教室	寄り添い教室
6月6日～3月20日 (全30回)	土曜日	13:30～15:30	154人	69人	357人

参加者の延べ人数は580人となり、昨年度と比べると延べ人数で125人減少した。原因として主に新型コロナウイルス感染症拡大による来日者数・通学者数の減少によるものと考えられる。

初期適応クラスでは、バイリンガル講師3人体制で1人は大学生、2人は高校生だった。いずれのバイリンガル講師も以前ハロハロ教室に通っていた生徒で、彼らから「新しく来日するフィリピン人児童生徒のサポートに関わりたい」という声があり、講師として活躍してもらった。寄り添いクラスでは、毎回12人程度の生徒が参加した。ボランティアの先生方は2016年度から継続して6人をお願いしており、なるべく同じ生徒を担当してもらい、「宿題を終わらせる。」ということを目的として実施している。生徒の希望により、テスト対策や面接試験対策、作文作成なども行っている。

○ベトナム人の子ども学習支援（ティントゥオン教室）（717人）

協力 静岡県ベトナム人協会
会場 三方原協働センター

期間	曜日	時間	参加者(延べ)	
			未就学児	小学生
6月3日～2月24日 (全34回)	水曜日	18:00～20:00	151人	566人

本年度はコロナ対策のために密を避け、クラスを減らして行った（幼児クラスは年長のみ）。年長は主にひらがな、数字の読み書きをした。後半は色々な言葉を覚えたり、知恵の問題に取り組んだりした。小1年は人数が多く、3、4人ずつに分け、日本語が遅れている児童はイラストのあるドリルを用いて国語や算数の問題に取り組み、他の1年は算数の文章題に力を入れた。国語は教科書の音読、出来る子は作文にも挑戦し、後半は読解の問題も行った。2・3・4・6年生は主に宿題を行っていたが、苦手分野を講師が用意した教材プリントを用いて重点的に教えた。5年生はバイリンガルの先生が基本的な日本語を教え、漢字を毎回テストしながら覚えさせた。

保護者会の第1回目は、入会したほぼ全員が参加した。参加者からの感想では、保護者同士の交流の場にもなっているとのことだった。家での学習の様子、困り事などを聞いた。身近に相談できる人がいるかを聞くと、会長のミンさんの名を挙げた人もいた。教室のバイリンガル講師とのつながりはないという答えがあったので、来年度は連絡網を作り、相談などができる体制づくりをしたい。

○浜北日本語教室（809人）

協力 浜北国際交流協会
会場 浜北文化センター 他

期間	曜日	時間	会場	参加者(延べ)
7月4日～3月27日 (全24回)	土曜日	13:30～17:00	浜北文化センター	792人
7月4日～3月27日 (全4回)	受講者の都合に合わせて実施		企業（個別指導）	8人

日本語スピーチコンテスト

- ・開催日 令和3年1月30日（土）
- ・会場 浜北文化センター「大会議室」
- ・出場者 9人
- ・来場者 浜北国際交流協会役員のみ（録画した動画を配信）

④浜松市における地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業（市委託事業）

浜松市の日本語教育体制の整備・充実を図るため、文化庁事業補助金を活用し、令和元年に策定した日本語教育推進方針を基に地域日本語教育体制のさらなる充実を図った。令和3年度以降は持続的な体制を構築していく予定である。

取組1：総合調整会議の設置

取組2：地域日本語教育コーディネーターの育成支援（5～12月）

取組3：浜松地域日本語学習支援ネットワーク会議の開催（8月、12月）

取組4：浜松市日本語教室の地域展開（6月～12月）

取組5：企業と連携した外国人支援者養成（6月、8月、11月）

取組6：ICTを活用した日本語学習試行

■取組1：総合調整会議の設置

構成委員 年間4回開催（2時間×4回）

氏名（敬称略）	所属及び役職
金城アイコ	NPO法人アラッセ代表理事
金子和裕	浜松経済同友会事務局長
坂本勝信	常葉大学経営学部准教授
櫻井敬子	浜松市教育委員会教育総合支援センター外国人グループ長
嶋田和子（座長）	一般社団法人アクラス日本語教育研究所代表理事
竹下知宏	学校法人浜松日本語学院校長
丹野清人	首都大学東京人文社会学部教授
リビエ ジョセフ マテュー	株式会社フォーシーズンズ外語学院理事長
佐藤洋一	公益財団法人浜松国際交流協会業務執行理事
鈴木三男	浜松市企画調整部国際課課長

■取組2：地域日本語教育コーディネーターの育成支援

取組4の浜松市日本語教室の地域展開と連動し、日本語教室を受託した団体らとOJT形式でコーディネーターの役割を担える人材を育成する研修会を開催した。

（5～12月）

回	開催日時	内容	出席者数
1	5月2日（土） 13:30～15:30	学習目標、語彙と各回の会話（テーマ）、教材等について	7人
2	5月16日（土） 10:30～12:00		8人
3	5月23日（土） 10:30～12:00		8人
4	8月15日（土） 13:30～15:30	第1期報告、自己評価、第2期内容検討	8人
5	8月18日（火） 14:30～15:30	第2期（対面とオンラインのハイブリッド教室）検討	2人
6	9月4日（金） 10:00～11:00		4人
7	12月12日（土） 10:00～12:00	振り返り、今後のカリキュラムについて	7人

取組3：浜松地域日本語学習支援ネットワーク会議の開催

市内の日本語教室開催団体間の連携を図るため、浜松地域日本語教室ネットワーク会議を開催。
取組6のICT日本語学習の試行と連動し、研修会+ネットワーク会議の形式で実施。(8月、12月)

回	開催日時	テーマ	参加団体数
1	8月27日(木) 15:15~16:15	ICTを活用した日本語教室について 令和3年度以降の浜松市日本語教室について	8団体11人
2	12月23日(水) 15:15~16:15	コロナ禍での日本語教室開催状況について 令和3年度以降の開催予定について	6団体9人

取組4：浜松市日本語教室の地域展開

外国人学習支援センターの日本語教室を広域展開し、新たに市内3か所にて日本語教室入門クラスを開催。取組2の地域日本語教育コーディネーター候補者育成支援と連動。(6月~12月)

■入門 夜間コース

業務受託団体：公益財団法人浜松国際交流協会

期	期間	開催区	開催数	延べ受講者数
1	6月1日~8月3日(月) 18:30~20:00	中区 (クリエート浜松)	10回	105人
2	10月5日~12月14日(月) 17:30~18:45 ハイフレックス形式		10回	66人

■入門 週末コース 浜名

業務受託団体：第1期 特定非営利活動法人フィリピンナガイサ
第2期 静岡県ベトナム人協会

期	期間	開催区	開催数	延べ受講者数
1	6月6日~8月8日(土) 14:00~15:30	浜北区 (浜名協働センター)	10回	64人
2	9月19日~11月28日(土) 18:00~19:30		10回	82人

■入門 週末コース 白脇

業務受託団体：特定非営利法人浜松日本語日本文化研究会

期	期間	開催区	開催数	延べ受講者数
1	6月6日~8月8日(土) 14:00~15:30	南区 (白脇協働センター)	10回	83人

■学習者アンケート結果(2期5教室合計)

クラスは良かったですか		これからも日本語の勉強をつづけたいですか	
とても良い	34	はい	34
良い	1	いいえ	0
ふつう	0	分からない	1
あまり良くない	0		
全然良くない	0		

<p>どんな時に「日本語を書くことができた/読むことができた！」と感じましたか。</p> <p>道の看板(レストラン等)や、スーパーや仕事でも読めるようになりました。</p> <p>商品の名前を読めるようになりました。</p> <p>自分で窓口の手続きを記入できた時。</p> <p>今日、娘の保育園の本を読んでみます。</p> <p>息子たちの名前を読めたとき、彼らの名前を書けたときとても幸せだった。</p> <p>仕事で自分の名前を書いた時、職場の人に自分が書いた名前をきれいと言ってもらえた時。</p> <p>最近、より注意を払って外にあるカタカナを見たとき。</p>
--

取組5：企業と連携した外国人支援者養成

企業内におけるコミュニケーションの醸成を図るために、企業の従業員を対象に、やさしい日本語研修(HICE監修)ワークブックを用いて研修を実施。(6月、8月、11月)

■企業内やさしい日本語研修第1回

日 時	6月25日(木) 10:00~12:00
会 場	静岡事業振興協働組合
参加人数	10人
講 師	内山夕輝(浜松国際交流協会)
アンケート	<p>内 容…とても良かった78% 良かった22%</p> <p>難易度…少し難しかった11% ちょうどよかった78% 少し簡単だった11%</p> <p>何がいけないのが具体的に良くなった。伝えやすい日本語にするのがやや難しかった。分かりやすい説明で、この先の対応に役立つと思った。</p>

■企業内やさしい日本語研修第2回

日 時	8月7日(金) 13:30~15:30
会 場	株式会社桜井製作所
参加人数	8人
講 師	内山夕輝(浜松国際交流協会)
アンケート	<p>内 容…とても良かった14% 良かった86%</p> <p>難易度…難しかった14% 少し難しかった43% ちょうどよかった43%</p> <p>普段気を付けて外国人に話しているつもりではいましたが、何気なく使っている単語にも気を付けないといけないと改めて感じました。自分の住んでいる町の外国人がどれくらい住んでいるのか改めて知るきっかけになった。相手にどうすれば伝わるのか、文章を考えるのが難しかった。</p>

■企業内やさしい日本語研修第3回

日 時	11月25日(水) 13:30~15:30
会 場	株式会社ソミック石川
参加人数	6人
講 師	内山夕輝(浜松国際交流協会)
アンケート	<p>内 容…とても良かった75% 良かった25%</p> <p>難易度…難しかった17% 少し難しかった58% ちょうどよかった25%</p> <p>現場に近づく実践的研修ができると良いと思った。</p> <p>具体的なやさしい日本語の作成の仕方がわかった。</p> <p>当社でサンプルデータを集めていただき、現場(直・間問わず)向けのテキストを作ってほしい。</p> <p>普段自分が使っている日本語がいかに難しいかがテキストの練習問題を通じてよくわかった。</p> <p>今までは翻訳することが親切だと思っていたが、考えが変わった。</p> <p>非常に良い講義で現場で実践してみようと思った。楽しく学ぶことができた。</p> <p>現場で実践して相手がどんなリアクションを取ってくれるか楽しみだ。</p>

取組6：ICTを活用した日本語学習試行

文化庁が開発したICT教材「つながるひろがる にほんごでの暮らし」を活用した学習方法を紹介する講習会を開催。

回	開催日時	テーマ	講師	参加者数
1	8月27日(木) 13:00~15:00	「つながるひろがる にほんごでの暮らし」を使ってみよう!	西山陽子 (つながるひろがる にほんごでの暮らし制作チームメンバー)	43人
2	12月23日(水) 13:00~15:00	学習支援にオンラインを取り入れてみよう (Zoom編)	染葉麻愛美 (浜松国際交流協会)	6人

■天竜日本語教室におけるICT活用授業の試行(常葉大学連携推進事業)

日時	10月11日、11月29日、12月20日、1月24日、2月28日、3月7日(日) 10:00~12:00
会場	ハイフレックス(Hybrid-Flexible)形式 対面型+同期双方型のオンライン
講師	常葉大学 坂本勝信准教授、谷誠司教授、大学生(日本語教員養成課程の学生等)
内容	国際交流基金が作成したICT教材(いろいろ)を活用しながら、大学生と学習者のオンラインによる対話活動を設け、交流も行った。大学生には教案づくりから実際の授業までを行ってもらい、常葉大学教員(坂本先生、谷先生)が教授法の指導を行った。

■U-ToC日本語教室(初級・話読聞書クラス)におけるICT活用授業の試行(常葉大学連携推進事業)

日時	6月5日(金)~9月25日(金) 14:00~15:00
会場	オンライン
講師	U-ToC初級日本語講師(3人)から1人/回参加
ボランティア	With U-Net(10人)、常葉大学学生(9人)から7人/回参加
内容	初級クラスの学習者を対象にした特別クラス。対面授業で控えている口頭練習の機会を増やすため、オンライン上で実施した。初級クラスの既習事項を運用できるようにするために「できる日本語」の「話読聞書」を題材にして、ボランティア1人に対し、学習者1、2人がZoomのブレイクアウトセッションにて対話活動を行った。

⑤外国人学校への日本語教師派遣事業(市委託：外国人学習支援センター事業)

外国人学校児童生徒への日本語学習支援のため、市内に所在し、本国政府の認可のある外国人学校に対して日本語教師を派遣する。

学校名	教員数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	学校計
ムンド・デ・アレグリア学校	年間6人	146	113	131	116	74	118	108	96	102	68	72	82	1,226
イーエーエス伯人学校	年間3人	74	32	108	117	69	102	85	102	50	36	106	120	1,001
エスコラ・アウカンセ	年間2人	63	57	76	73	20	59	77	72	52	17	60	76	702
計		283	202	315	306	163	279	270	270	204	121	238	278	2,929

3. 外国につながる次世代支援事業（市委託：外国人学習支援センター事業）

① 外国人の子どもの不就学ゼロ作戦事業

調査対象者となった就学年齢の外国にルーツをもつ子供に対して、訪問等で就学状況を確認し、状況に応じて就学につなげる。

■ 就学状況の把握

調査内容

	調査項目	回数	対象
A	新小学校1年生	1回（第1回調査）	4月に小学校1年生相当の年齢になる外国籍の子供
B	次年度新中学校1年生	1回（第4回調査）	次年度4月に中学校1年生相当の年齢になる外国籍の子供
C	転入者	6回	新たに浜松市に転入してきた外国籍の子供
D	退学者	6回	公立小学校、外国人学校等を退学した外国籍の子供

調査対象者数

(人)

	調査項目	調査対象者	訪問調査前に就学や異動等が確認された者	訪問調査等対象者
A	新小学校1年生	29	23	6
B	次年度新中学校1年生	29	21	8
C	転入者	42	20	22
D	退学者	66	26	40
	合計	166	90	76

調査方法

訪問回数（不在含む）	122回
訪問により面会できた件数	46件
訪問時は不在だったが、差し置き資料により連絡があった件数	13件
外国人学校・教育総合支援センターへの照会件数	87件

■ 令和2年度に行った6回の調査の結果

		項目	報告時点	
調査対象者 (166)	浜松市に居住 (113)	就学(87) 調査及び支援等により、調査期間中に就学が確認できた者	公立小学校	8人
			公立中学校	7人
			私立小学校	0人
			私立中学校	0人
			市内の外国人学校	69人
			市外の外国人学校	3人
			就学が確認できなかった者(20)	就学支援教室・学習施設等に在籍あり
		就学支援教室・学習施設等に在籍なし		12人
		その他対象外案件 (6)	市教委に相談あり、手続きが進んでいる段階	2人
			母国の通信教育を自宅学習している者	2人
			母国や外国人学校等で中学を卒業した者	2人
			居住実態なし(53) 訪問調査等により、転居・転出・帰国が確認できた者	居住実態なし
			親族等から一時帰国を確認した者	22人
		国内外への転出	9人	
	長期休暇等で来日(母国で在学中)	1人		
合計			166人	

【就学が確認できなかった者の属性】

1) 国籍

国籍	人数
ブラジル	16
韓国	2
インドネシア	1
日本（二重国籍）	1
合計	20

2) 相当学年

小学校	人数
1年生	7
2年生	0
3年生	2
4年生	3
5年生	2
6年生	1
合計	15

中学校	人数
1年生	2
2年生	2
3年生	1
合計	5

小・中学校合計 20人

■ケースに応じた支援

《令和2年度に行った6回の調査で就学が確認できなかった者の現在の状況》

（支援・継続調査・就学支援教室当への在籍確認等による動向：令和3年3月31日現在）

項目			年度末時点	
就学が確認できなかった者 (20)	浜松市に居住者 (14)	就学(7) 継続調査及び支援等により、就学に結びついた者	公立小学校	1人
			公立中学校	1人
			私立小学校	0人
			私立中学校	0人
			市内の外国人学校	5人
			市外の外国人学校	0人
		実質不就学(7)	就学支援教室・学習施設等に在籍あり	3人
	就学促進教室・学習施設等に在籍なし		4人	
	その他対象外案件(0)	市教委に相談あり、手続きが進んでいる段階	0人	
		母国の通信教育を自宅学習している者	0人	
		母国や外国人学校等で中学を卒業した者	0人	
	居住実態なし(6) 継続訪問調査等により、転居・転出・帰国が確認できた者		居住実態なし	2人
			親族等から一時帰国を確認した者	3人
			国内外への転出	1人
長期休暇等で来日(母国で在学中)			0人	
合計			20人	

■実質不就学(全体)が継続した者の内訳（令和3年3月31日現在）

*令和元年度からの継続者3人を含む

項目			人数
実質不就学 (10)	就学支援教室等に在籍あり (4)	本国政府認可外の学習施設に通っている	3人
		就学支援教室等に通っている(予定含む)	1人
	就学支援教室等に在籍なし (6)	学校や支援教室に通っておらず、就学予定なし、帰国予定なし	2人
		就学予定あり	2人
		転出予定あり	2人
全体の合計			10人

【不就学者の属性】

1) 国籍

国籍	人数
ブラジル	10人

2) 相当学年

小学校	人数
1年生	3人

3) 不就学の期間

中学校	人数	期間	人数
1年生	0人	半年未満	2人

韓国	0人
インドネシア	0人
日本（二重国籍）	0人
合計	10人

2年生	0人
3年生	4人
4年生	0人
5年生	0人
6年生	1人
合計	8人

2年生	0人
3年生	2人
合計	2人

半年～1年未満	5人
1年～2年未満	2人
2年～3年未満	0人
3年以上	1人
合計	10人

実質不就学者への支援

- ・不就学判明後も家庭訪問等で状況を確認
- ・就学支援教室や教育総合支援センター、学校への案内、及び現場への同行
- ・関係機関、専門機関との連携
（発達障害、虐待やネグレクトが疑われるケースなどの困難事例では、関係機関へ相談し、今後の支援について関係者らで話し合う場を設けた）

■外国人学校スクールカウンセラー派遣（60回）

発達相談支援センター（ルピロ）と連携し、外国人学校にカウンセラー（ブラジルの幼児教育と心理の専門家）の派遣を行った。子供が抱えている問題は複合的であり、複雑な家庭環境により子供の情緒が安定しない、したがって友人関係や学習面に影響がみられる、ネグレクトが疑われる、発達障害や学習障害が疑われる等が存在しており、家庭の経済的理由を含めて、これらの子供たちが不就学にならないようにするには継続したカウンセリングが必要である。

また、発達相談支援センター（ルピロ）と多文化共生センターにて、年間5回の連絡会を実施し、専門的見地から適切な対処法などについてアドバイスをいただいた。

派遣者 デビデ・ヴァンデル・ルイス（ブラジルの幼児教育と心理の専門家）

派遣先	学校名	実施スケジュール	実施回数
	エスコーラ・アウカンセ	第1・3水曜日 9:30-13:30 13:00-17:00	21回
	イーエーエス伯人学校	第3水曜日 15:00-16:00	19回
	ムンド・デ・アレグリア学校	第2・4水曜日 9:30-13:30	20回
	合計		60回

連絡会議	実施スケジュール	会場	実施回数
	隔月第4水曜日 15:00-17:00	浜松市発達相談支援センター（ルピロ） 多文化共生センター	5回

スーパーバイザー 内山 敏氏（浜松市発達相談支援センター所長）

■外国人学校カウンセリング参加人数（合計）

訪問先	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
エスコーラ・アウカンセ	0	3	10	10	9	9	4	5	7	2	6	0	65
イーエーエス伯人学校	3	2	5	5	2	10	1	1	3	1	1	0	34
ムンド・デ・アレグリア学校	4	5	8	10	11	7	8	8	5	2	10	0	78
計	7	10	23	25	22	26	13	14	15	5	17	0	177

② 定住外国人の子供の就学促進事業

外国にルーツをもつ子供の就学促進のため、市内にある他2つの学習機関と連携し、就学等に課題を抱える外国にルーツをもつ子供の学びの場を確保するとともに、公立学校や外国人学校等教育機関への就学につなげるために必要な支援を実施した。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響等により9月から就学促進教室を1つ新設した。

■在籍数月別推移
佐鳴台教室

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
就学前	0	0	0	0	0	1	3	4	4	4	5	5	26
小学生	0	0	2	2	2	1	2	4	5	5	4	4	31
中学生	0	0	0	0	0	1	2	2	2	2	1	1	11
学齢超過	3	3	6	7	7	6	5	5	5	6	4	4	61
計	3	3	8	9	9	9	12	15	16	17	14	14	129

雄踏教室

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
就学前	1	1	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	42
小学生	5	5	3	3	3	5	4	3	3	3	0	0	37
中学生	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	10
学齢超過	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	7	7	8	8	8	10	9	8	8	8	4	4	89

駅南教室

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
就学前	9月より開始					0	0	0	0	0	0	0	0
小学生						0	0	0	0	0	0	0	0
中学生						0	0	0	0	0	2	2	4
学齢超過						2	2	4	4	3	2	2	19
計						2	2	4	4	3	4	4	23

■国籍別在籍実人数

(人)

国籍	佐鳴台教室	雄踏教室	駅南教室	計
ブラジル	15	14	0	29
フィリピン	4	0	4	8
ペルー	1	0	0	1
日本(二重国籍)	0	0	2	2
計	20	14	6	40

■就学実績等

(人)

就学先等	計
公立小中学校	18
外国人学校	6
公立高校等	6
計	30

《主な就学先》

浜松市立瑞穂小学校、佐鳴台小学校、雄踏小学校、葵が丘小学校、葵西小学校、竜禅寺小学校、萩丘小学校、光明小学校、可美小学校

浜松市立北部中学校、開成中学校、南部中学校、佐鳴台中学校、細江中学校

静岡県立浜松大平台高等学校、新居高等学校、浜名高等学校、学校法人KTC学園おおぞら高等学院、イーエーエス伯人学校、ムンド・デ・アレグリア学校

③ 外国にルーツを持つ青少年のキャリア支援事業（29人17団体）

■外国につながる高校生のための就職応援セミナー →新型コロナウイルス感染症拡大のため中止
代替案として、Zoomで録画したセミナーを開催、編集して配信。

日時 1月31日（日）10:00～12:00

内容 外国にルーツを持つ若者のための就職経験談&就活アドバイス。

外国にルーツを持つ社会人3人に対し、外国ルーツの大学生が話を聞き出す形で進行。

ライフストーリー紹介、就職するまでに頑張ったこと、正社員のメリット等

成果 動画化したことで、外国ルーツの若者の経験談を聞くことが容易になった。また、動画編集（日本語、ポルトガル語、英語字幕入り）もすべて外国ルーツの若者が担当した。

■関係諸機関とのネットワーク会議

外国人青少年の支援に係る関係諸機関との連携体制を構築するため、ネットワーク会議を実施した。

日時 7月15日（水）14:00～15:30

会場 浜松市外国人学習支援センター 大会議室

参加 17団体（県立高校、外国人学校、行政機関、NPO法人等支援機関等）

内容 令和元年度事業報告、令和2年度事業説明、参加団体情報交換

■外国にルーツを持つ青少年のためのキャリア支援講座

日時 9月14日（月）10:00～12:00

会場 エスコーラ・アウカンセ（講師は浜松市外国人学習支援センターから講義を配信）

講師 菊田千秋（A Collection 株式会社）

内容 今後のキャリアプランに役立てる！日本の雇用環境について学ぼう

参加者 29人（エスコーラ・アウカンセ 生徒28人、講師1人）

■定時制高校へのロールモデルによる出前授業（出張COLORS）

→新型コロナウイルス感染症拡大のため中止

4. 多文化防災事業（市委託：多文化共生センター事業）

① 災害時多言語ボランティア養成研修（78人）

第1回 「地震に備える～今できること～」

日時 10月24日（日）14:00～16:00

会場 多文化共生センター

参加者 29人（ブラジル、フィリピン、ペルー、インドネシア、ベトナム）

第2回 「防災学習センター訪問・入門」

日時 11月7日（土）9:00～12:00

会場 防災学習センター

参加者 17人（ブラジル、フィリピン、ペルー、中国、インドネシア、ベトナム）

第3回 「家庭内DIG訓練」

日時 11月21日（日）14:00～16:00

会場 クリエイト浜松 ふれあい広場

講師 浜松市危機管理課

参加者 32人（ブラジル、フィリピン、ペルー、インドネシア、ベトナム）

② 災害時多言語支援センター設置訓練（19人）

日時 令和3年2月2日（火）14:00～15:30

会場 多文化共生センター

参加者 19人（HICE職員16人、浜松市国際課職員3人）

内容 国際課とSlackを通じて情報交換を実践。

③ 災害・防災情報の提供（39 件）

Facebook において以下のとおり情報提供を実施した。 *別添参照

月	内容	件数	
4月	新型コロナウイルス感染症について	50	
5月	新型コロナウイルス感染症について	57	
6月	新型コロナウイルス感染症について	56	
7月	新型コロナウイルス感染症について	53	48
	大雨に注意		5
8月	新型コロナウイルス感染症について	19	14
	災害時用アプリと web サイト紹介		4
	防災セミナー		1
9月	新型コロナウイルス感染症について	18	12
	防災の日について		4
	地震が発生しました		2
10月	新型コロナウイルス感染症について	13	8
	台風 14 号について		3
	災害時用 web サイト紹介		2
11月	新型コロナウイルス感染症について	31	
12月	新型コロナウイルス感染症について	37	
1月	新型コロナウイルス感染症について	31	
2月	新型コロナウイルス感染症について	10	
3月	新型コロナウイルス感染症について	16	

④ 緊急情報の提供体制づくり（市委託：国際課）

■外国人市民へ緊急情報伝達に向けたネットワークづくり

①ブラジルやフィリピン、ペルー人向けのスーパーやレストランなどへ出張相談を行った。

12 店舗

②人材派遣会社の外国人担当者と防災についてのミーティングを持ち、災害時多言語支援センターについての周知や緊急情報伝達についての情報提供を行った。

5 社

③在浜松ブラジル総領事館、在東京ペルー総領事館、在名古屋フィリピン総領事館に対し、災害時多言語支援センターについての周知や緊急情報伝達についての情報提供を行った。

■効果的な情報提供のあり方の調査

①各地の国際交流協会への聞き取り 5 協会

②浜松市内の外国人向けのスーパーやレストラン、人材派遣会社、宗教団体のリスト作成
団体登録システムを構築

グローバル感覚に優れた人づくり

1. 地域共生事業（市委託：多文化共生センター事業） 参加者数：延べ141人13件

① 各地域への個別支援（12自治会から13件の相談）

自治会 市営田畑団地、佐鳴台、米津町、篠原町、本郷町東、西島町西、天竜川団地、鷺の宮団地、遠州浜第二、江西ビレッジハウス、遠州浜第三、田尻町

相談内容 ・ゴミ出しルール徹底ちらしをポルトガル語作成(アルミ缶の回収はごみステーションでは行っていないので、地域もしくは民間のリサイクル業者へ持ち込むように等の案内)

・騒音問題。中古車販売業のエンジン空ぶかし、音楽の騒音。経営者外国人。市役所環境保全課、警察も対応済みで、十数回訪問しているが、改善なし。業者に土地を貸している不動産屋からも話をしてもらったが、効果なし。業者側は住民1人程度の苦情だと思っている。

⇒「訴訟になるとお金がかかるので心配している」という外国人経営者側の立場からのアプローチを行い数回訪問。

・騒音問題。外国人個人宅。土日休日は夜中までバーベキュー等でうるさい。昨年、多文化共生センターから通訳を派遣。自治会としてもルール徹底のお願いをしたが、効果なし。

⇒再度、訪問。近所から苦情がきており、「訴訟になるとお金がかかるから心配している」という言い方でアプローチ。効果あり。

・バーベキュー時の騒音や来客者の車のマナーなどについて、一戸建てを立てた外国人に案内するために暮らしのマナーについてのチラシを作成し翻訳した。その後、自治会の班の人と対象の外国人に自治会が呼びかけ、集会所で顔合わせの会と生活マナーについて話し合う会を持った。自治会長がうまく場を取り回し、外国人住民を責めるような雰囲気を作らず、まずはお互い顔を合わせて知り合いになるところから始めたため、非常に和やかない会となった。) HICEからはコーディネーターと通訳を兼ねて職員2人同席。

戸別訪問 米津町(3回)、篠原東(1回)、西島町西(1回)、天竜川団地(1回)

② 地域共生自治会会議

新型コロナウイルス感染症拡大のため、対面セミナーは中止。

【代替案】自治会向け啓発新聞かわらばん「お隣さんは外国人」発行

概要 今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、地域共生自治会会議の対面開催は困難が予想された。対象者は自治会役員等で年齢層が高く、セミナーをインターネット配信することでも対応が難しいことから、紙媒体の啓発ちらしを作成し配布することで、地域共生自治会会議に代替した。地域共生自治会会議のねらいは自治会役員の啓発と意見交換であり、意見交換こそできないが、紙媒体となると全ての単位自治会に届けることが可能なため、これまで会議に参加したことのない自治会にも啓発できるよい機会となった。

内容 佐鳴湖西岸団地市営・県営住宅 自治会 副会長 野中康司氏にインタビュー
外国人との共生の地域づくりのヒントについての工夫をインタビュー記事として掲載。同時に、その内容を4コマ漫画にして関心のない層にも読んでもらえるように工夫する。さらに、「やさしい日本語」について取り組み事例を掲載。裏面には浜松市の外国人の状況や多文化

共生センターで行う自治会向けサービスについて記載。

サイズ A3 二つ折り タブロイド版

発行部数 3000部

発行時期 2020年10月

配布先 単位自治会 744

HICE 会員 700

その他希望者 HICE NEWS 配布先の公共機関など

③ ブリッジビルダー育成（141人）（前年度141人）

「外国人住民への効果的な支援サービスとは 実務セミナー」

日時 1月13日(水)13:30~16:30

会場 オンライン開催 (ZOOM)

内容 ①外国人労働者の生活の現実～ハケンで働くということ」

講師：(丹野清人 東京都立大学教授)

②「やさしい日本語」～外国人に伝わる日本語を学ぼう

講師：(U-ToC 地域日本語コーディネーター)

参加者：141人（社会福祉協議会職員、民生委員、保護士、行政書士、弁護士、保育士、市職員、労働基準監督署職員など外国人支援に職務上の関わりがあり、地域コミュニティにおいても外国人住民との相互理解を進める人材となりうる人）（当日視聴77人、録画配信64人）

2. 多様性を生かしたまちづくり事業（市委託：多文化共生センター事業）

① はままつ多文化共生 MONTH(月間) 事業

10月を「はままつ多文化共生 MONTH(月間)」として多文化共生についての啓発を行った。

■啓発リーフレット 「はままつ街のかわらばん“おとなりさんは外国人！”」を発行。

佐鳴湖西岸団地市営・県営住宅自治会副会長の野中康司氏にインタビューしたものを記事として掲載。外国人との共生の地域づくりのヒントについての工夫を4コマ漫画にして関心の無い層にも読んでもらえる工夫をした。また、自治会向け文書を「やさしい日本語」と紙面のレイアウトを工夫しわかりやすくした例を掲載。その他、浜松に外国人が多く住む歴史的な理由や人数、在留資格、国籍の割合など基本情報、多文化共生センターの自治会向けサービスの紹介を掲載した。

成果 自治会向けに1部ずつ配布したところ、追加配布を求める声が複数あった。また、出前講座やセンターへの視察訪問者などへ渡す資料としても効果があった。

② 文化・スポーツ紹介

Facebookにより浜松市内の主要な文化・スポーツイベント等についての情報を多言語で提供。
合計13件

③ 地域活性化事業

■外国人留学生のための日本企業就職セミナー（7月16日予定）だったが、連携予定のビジネスマッチングフェア自体が新型コロナウイルス感染症拡大のために中止となったため、セミナーも中止。代替事業として、以下を開催。

「外国人留学生就労支援セミナー」

日時 7月8日(水)14:00~16:00

会 場 グランドホテル浜松

参加者 浜松市内企業 21 社などから 48 人

内 容 1) 講義「アフターコロナで生き残り、飛躍する企業の変革シナリオとは？」

講師：静岡大学特任教授 藤巻博

2) 「**インタラクティブ**・インターンシップについて」(浜松経済同友会)

3) 静岡県プログラム「海外合同面接会」について(静岡県産業部)

4) HICE における外国人雇用支援事業・相談事業について

成 果 8 月～9 月にかけて行ったアクティブインターンシップについて関心を高めることができ、実際の参加につながった。

■ (留学生向け) インタラクティブ・インターンシップ (自主事業)

静岡大学及び経済同友会と連携して、留学生及び企業に呼びかけ、2 週間程度のインターンシップを実施した。インターンシップ・アドバイザー (IA) を各企業に 1 人配置し、企業と留学生の間のやり取りの支援をすることによって、企業・留学生のお互いにとって言語的・心理的な障壁を低くしながら効果的なインターンシップ事業になるような工夫を取り入れた。事業の全体監督者は藤巻義博氏 (静岡大学特任教授)。

【前期】8 月～9 月

留学生 17 人 (35 人希望のうち)：静岡大学工学部・情報学部・総合科学技術研究科・創造科学技術大学院

：インド 5、バングラデシュ 3、インドネシア 3、ベトナム 2、韓国 2、タイ、ナイジェリア

：修士 9、学士 5、博士 3

企 業 8 社：(株)ソミック石川、遠州信用金庫、三栄ハイテックス(株)、(株)システック、(株)不二、カツヤマファインテック(株)、(株)浜名湖国際頭脳センター、エグジーテック(株)

【後期】2 月～3 月

留学生 16 人 (42 人希望のうち)：静岡大学工学部・情報学部

：インド 3、バングラデシュ 4、インドネシア 2、ベトナム 6、タイ

：修士 9、学士 6、博士 1

企 業 6 社：(株)ソミック石川、三恵(株)、浜名部品工業(株)、小松工業(株)、(株)エヌエスティー、(株)カタナコーポレーション

内定者 8 人

【課題】留学生の希望者全員を受け入れられるほどの企業数が集まらない。留学生を雇用するメリットを伝えきれていない。インターンシップを通じて実際に留学生の雇用につながった場合にはお互いの満足度が高くなるが、採用・就職のミスマッチも起こりやすい。学士は日本語はできるが専門性が低い、修士以上は専門性は高いが日本語能力が低い傾向がある。「外国人雇用サポートデスク」と連携をして実際の就職を進めていく必要がある。また、就職後の定着支援も重要である。

■ (在住外国人向け) 「障がい者介護職とは？」(6 人)

日 時 3 月 6 日 (土) 14 : 00～16 : 00

会 場 多文化共生センター 及び たけし文化センター

参加者 6 人 (ブラジル人 5 人、フィリピン人 1 人)

内 容 1) 知的障がい者介護職とはどういうものか (簡単な説明)

2) 実際に現場を見てみよう!

講師 NPO 法人クリエイティブサポートレッツ

成果 障がい者介護職という新しい職種について在住外国人に知ってもらう機会となった。障がい者介護職は、介護にあたり日本語能力をあまり問われない上に、多様性を活かすという柔軟な発想で介護が求められるため、多文化を活かした多文化共生と親和性が高い。

■外国につながる高校生のための就職応援セミナー →新型コロナウイルス感染症拡大のため中止

代替案として、Zoomで録画したセミナーを開催、編集して配信。

日時 1月31日(日) 10:00~12:00

内容 外国にルーツを持つ若者のための就職経験談&就活アドバイス。

外国にルーツを持つ若者グループ COLORS が中心となって内容を企画。外国にルーツを持つ社会人3人に対し、外国ルーツの大学生が話を聞き出す形で進行。

ライフストーリー紹介、就職するまでに頑張ったこと、正社員のメリット等

成果 動画化したことで、外国ルーツの若者の経験談を聞くことが容易になった。また、動画編集(日本語、ポルトガル語、英語字幕入り)もすべて外国ルーツの若者が担当した。

④フェスタ・サンバの運営

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

3. グローバル人材の育成と活用

① 地球人教育出前講座及びコーディネート

(市委託：多文化共生センター事業)(1,699人)

■学校等への派遣

学校名	派遣人数		対象/参加者数
	登録ボランティア	専門職員	
浜松学院中学校	1人		中学生 23人
静岡文化芸術大学(オンライン)		2人	大学生、大学院生 250人
静岡県立大学(オンライン)		2人	大学生 90人
浜松学院高校		1人	高校生 35人
常葉大学(経営学部)		1人	大学生 53人
常葉大学(外国語学部)		1人	大学生 63人
浜松日本語学院		1人	日本語教師養成講座受講者 13人
浜松情報専門学校		1人	留学生 41人
浜松湖南高校		2人	高校生 40人
浜名高校	1人		高校生 370人
浜松市立看護専門学校	4人	のべ8人	看護学生 80人
浜松医科大学大学院(助産学)		1人	大学院生 5人
12校	合計 26人		合計 1,063人

■協働センター等への派遣・コーディネート

派遣先名	派遣人数		対象/参加者数
	登録ボランティア	専門職員	
浜松市高台協働センター	1人		一般 30人
浜松市立青少年の家	2人		小学生 20人
合計2か所	合計 3人		合計 50人

■団体等への講師派遣・コーディネート

派遣先名	派遣人数		対象/参加者数
	登録ボランティア	専門職員	
ブラジル日本文化福祉協会・UNIP サンパウロ通信大学（オンライン）		1人	ブラジル在住ブラジル人、日本在住ブラジル人 65人
常葉日本語教育研究会		1人	日本語教育に関心を持つ常葉大学生 5人
JICA 中部		1人	一般 168人
日本国際交流センター		1人	一般 110人
浜松市相談支援専門員連絡会		1人	相談支援専門員 50人
にっぽん子ども・子育て応援団		1人	一般 50人
浜松市障がい者自立支援協議会		1人	障がい福祉に関わる事業所 30
合計 7か所	合計 7人		合計 478人

■学校・団体等からの訪問受け入れ

学校名・団体名	訪問先・期間		訪問者数
	多文化共生センター	外国人学習支援センター	
静岡文化芸術大学（インターンシップ）	1日		4人
静岡大学（インターンシップ）	10日		1人
立命館大学（インターンシップ）	3日		1人
静岡大学（オンライン）	1日		24人
焼津市地域教材研究委員会（オンライン）	1日		1人
西遠女子学園高校 2年	1日		3人
ル・フィガロ：フランス日刊紙	1日		2人
浜松西高校	1日		1人
静岡県議会（ふじのくに県民クラブ）	1日	1日	6人
名古屋外国語大学大学院（オンライン）	1日		1人
西遠女子学園高校 1年	1日		5人
掛川東高校（オンライン）	1日		1人
浜松学院中学校（職場体験）	1日		1人
浜松市立富塚中学校	1日		2人
浜松市立江西中学校	1日		2人
神戸大学国際人間科学部	1日		1人
浜松医科大学医学部看護学科	1日		6人
明治大学文学部	1日		1人
静岡大学情報学部	1日		1人
聖隷クリストファー大学	1日		12人
日本弁護士連合会（オンライン）	1日		10人
龍谷大学法学部 2年生		1日	3人
高知大学教員		1日	1人
大阪大学大学院		1日	1人
大阪大学大学院（オンライン）		1日	1人
浜松学院大学（オンライン）		1日	3人
藤枝市		1日	1人
舞阪町西町自治会		1日	1人
甲賀市政策推進課		1日	4人
（一社）ダイバーシティ就労支援機構（オンライン）		1日	1人

31 団体	延べ 42 日	合計 108 人
-------	---------	----------

②グローバル人材セミナー（市委託：多文化共生センター事業）

■外国にルーツを持つ若者が語る外国ルーツの児童生徒に必要な教科学習以外の支援とは…？

日 時 3月14日（日）13:30～16:00

場 所 Zoom

参加者 146人（当日視聴および後日録画視聴の申込者数）

属 性 日本語教師、教員、学習支援員、行政職員、中学生、大学生、留学生など

内 容 外国にルーツを持つ若者グループ「COLORS」メンバー11人によるセミナー。教科支援や日本語支援「以外」に必要な支援について、司会進行含め経験談を交えながら伝えた。

③国際理解教育講座（自主事業）（92人）

■「国際理解教育ファシリテーター養成講座」

場 所 Zoom

主 催 はままつ国際理解教育ネット

共 催 JICA 中部

内 容 多文化共生、貧困、環境問題などの今日的課題について取り上げ、国際理解教育に関する概要を学ぶとともに、ファシリテーターとしてのスキルの取得を目指す4回講座。今年度は「オンライン de 国際理解教育」として、SDGs をメインテーマに取り上げた。

	日 時	内 容	講 師	参加者
1	12月6日（日） 14:00～16:00	「SDGs×多文化共生」～ 知って考えよう多文化共生 とSDGs～	はままつ国際理解教育ネット 中澤純一氏	26人
2	12月20日（日） 14:00～16:00	「SDGs×環境」～SDGs から 考える身近な環境問題	はままつ国際理解教育ネット 松本早織氏、飯田浩敬氏、 河合良太氏、中澤純一氏	20人
3	1月17日（日） 14:00～16:00	「SDGs×フェアトレード」 ～フェアトレードで考える 持続可能な世界～	はままつ国際理解教育ネット 河合良太氏	25人
4	1月24日（日） 14:00～16:00	「SDGs×新型コロナ」～国 際理解教育とコロナ時代の SDGs～	はままつ国際理解教育ネット 中澤純一氏 ゲストスピーカー：バングラ デシュ（ジェトロ・ダッカ事 務所長）安藤裕二氏／中国 （アモイ大学）鄒聖傑氏	21人

④第11回はままつグローバルフェア（自主事業）（31人）（前年度3,400人）

目 的 ①広く市民（特に次世代を担う子ども・若者）に呼び掛け、国際交流に参加するはじめての
一歩の機会とし、文化を通じた多文化共生の社会づくりにつなげる。外国人と日本人同
士の交流の場を提供し、気軽に多くの方に参加してもらう機会とする。

②浜松市内で国際理解や多文化共生、国際協力に関わっている団体にプログラム提供者と
して参加してもらうことで、市民一体となってフェアを盛り上げる。

日 時 令和3年2月14日（日）～3月31日（水）

場 所 Zoom、HICE 公式 YouTube チャンネル

参加者 オンラインセミナーの参加者は31人 その他、動画視聴

日時・配信形式	実施主体	内 容
2月14日 10:00~12:30 【Zoom】	NPO 法人 フィリピン ナガイサ	「多文化共生時代」を縦と横につなぐ学校教育×社会教育 ことばと教育の今と未来
2月14日 14:00~16:00 【Zoom】	HICE	・浜松市の多文化事情（入門編） ・浜松の日系ブラジル人の場合 ・「日本語を教えるってどういうこと？」
2月14日~3月31日 【YouTube】	HICE	■HICE×SUAC 学生 海外文化紹介講座 バングラデシュ、ブラジル、コロンビア
2月14日~3月31日 【YouTube】	HICE	■多言語相談紹介動画 スペイン語、タガログ語、ベトナム語、ポルトガル語、英語、 中国語
2月14日~3月31日 【YouTube】	HICE	■COVID-19 啓発動画
2月14日~3月31日 【YouTube】	HICE	■自治会向け多文化共生啓発動画 「おとなりさんは外国人！」
2月14日~3月31日 【YouTube】	HICE	■英語で世界の異文化理解 世界のE-文化 「サードカルチャーについて」イギリス、シンガポール 「料理から学ぶサードカルチャー」イギリス、シンガポール 「インドの多様な祭りから文化を学ぶ」インド 「似ているのに違う韓国と日本のエチケット」韓国 「言語としての英語の歴史」イギリス
2月14日~3月31日 【YouTube】	豆乃木	「フェアトレード」って高くない？フェアトレード徹底解説
2月14日~3月31日 【YouTube】	浜松インド ネシア友好 協会	インドネシア友好協会 活動紹介
2月14日~3月31日 【YouTube】	ブラジル ダージ	サンバステップのレクチャー
2月14日~3月31日 【YouTube】	しらさぎ連	阿波踊りのレクチャー、阿波踊り×サンバ
2月14日~3月31日 【YouTube】	北遠秋まつり 天竜産 業観光まつり実行委員 会	天竜区の豊かな自然や情景、人の営みをドローンによる空撮、 水中撮影などを駆使して制作した抒情性豊かな映像
2月14日~3月31日 【YouTube】	JICA 浜松 デスク	浜松市で活躍する元 JICA 海外協力隊の紹介
2月14日~3月31日 【YouTube】	チアイーグ ルス浜松	ブラジル応援動画その他発表ステージ
2月14日~3月31日 【YouTube】	浜松インド ネシアムス リム家族会	イスラム文化、ムスリムの人たちの紹介

⑤多文化体験・交流事業(市委託:外国人学習支援センター事業) (86人) (前年度 2,305人)

外国人市民と日本人市民が相互の文化を理解し、市民同士の交流を深める体験講座。

■多文化体験(受講者数 延べ86人)

	日程	コース	講師	参加者
1	5月27日(水)	浜松まち歩き	おしゃべりタイム	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
2	9月30日(水)	防災訓練	内山兼輔(浜松市西区区振興課)	27人
3	1月27日(水)	お金から考える! あなたの未来	相川アンジェラ(浜松いわた信用金庫)	29人
4	2月22日(月)	防災訓練	内山兼輔(浜松市西区区振興課)	30人
合計				86人

⑥ホストタウン・ボランティア養成のための講座(市委託:外国人学習支援センター事業)

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、ブラジルホストタウンとしての受け入れ機運醸成や、ボランティア参加意識の向上を目指した講座を開催した。

	内容	日時	講師	参加者
1	ブラジルホストタウンセミナー	3月13日(土) 10:30~12:00	アウデーモ ガルシア(在浜松ブラジル総領事館)	30人
合計				30人

4. 国際交流・理解事業

1) 外国語講座

①国際交流のための外国語講座(自主事業)(53人)(前年度204人)

■国際交流のためのタイ語講座:初級(全6回・8回)

講師 植木チュダー

日程 火曜日 19:00~20:30

第2期	9月11日~10月16日	7人	受講者 合計16人
第3期	1月15日~3月5日	9人	

■国際交流のための英語講座:中級(全12回)

講師 マーティン・ギブズ

日程 水曜日 10:00~11:30

第1期	中止	0人	受講者 合計10人
第2期	9月9日~11月25日(全12回)	10人	

■国際交流のためのベトナム語講座:初級(全12回)

講師 坂井亜美

日程 水曜日 19:00~20:30

第1期	中止	0人	受講者 合計10人
第2期	9月9日~11月25日	10人	

■国際交流のためのポルトガル語講座：初級（全12回）

講師 柳澤クリスティーナ
日程 火曜日 19:00～20:30

第1期	中止	0人	受講者 合計8人
第2期	9月10日～12月17日 ※11/19・26休	8人	

■国際交流のためのスペイン語講座：初級（全8回）

講師 野国マリエラ
日程 金曜日 19:00～20:30

第3期	1月15日～3月5日	9人	受講者 合計9人
-----	------------	----	-------------

②国際交流のための外国語サロン（自主事業）（136人）（前年度251人）

■英語を通じて世界を知ろう！「世界のE-文化」（136人）

時間 13:30～15:30
会場 オンライン講座

日程	講師	参加者
6月21日（日）	ダニエル・フィン、ファン・レヴィ（イギリス・シンガポール）	55人
7月19日（日）	ダニエル・フィン、ファン・レヴィ（イギリス・シンガポール）	31人
9月20日（日）	アクシェイ・シングラー（インド）	11人
10月18日（日）	キム・テヒョン（韓国）	10人
11月15日（日）	ケーティ・エバンス（イギリス）	5人
1月17日（日）	ブライアン・ハグドーン（アメリカ）	8人
2月21日（日）	ベック・ジフン（韓国）	8人
3月21日（日）	ニコラス・クーパー（オーストラリア）	8人
合計		136人

2) 交流イベント（自主事業）参加者数：延べ139人（前年度738人）

① チャリティ・ポルトガル語講座（15人）

受講料の代わりに支援物資を！誰かを助けるポルトガル語講座
場所 多文化共生センター
講師 ロザンジェラ・マクシモ（ポルトガル語教師）
日時 6月28日（日）、10:30～12:30 / 13:30～15:30
参加者 15人

② 教科書に載っていないバングラデシュ（33人）

静岡文化芸術大学学生とのコラボ企画第1弾。
日時 8月23日（日）13:30～15:00
会場 Zoom
講師 稲川望、松本真吏
内容 バングラデシュの概要、先住民族、衣料品、デジタル環境、新型コロナウイルスの状況、ロヒンギャ難民の状況
参加者 33人 浜松市民のほか、東京や関西、バングラデシュからも参加があった。大学生やダッカ大学、JICA、JETRO関係者など多様な属性の人が参加。

③ **ブラジル留学・日系社会体験記** (55人)

静岡文化芸術大学学生とのコラボ企画第2弾。

日時 8月30日(日) 13:30~15:30

会場 Zoom

講師 宮城ユカリ

内容 ライフヒストリー、サンパウロ大学での留学体験、日系社会、今後の日本の多文化共生

参加者 55人 中学生・高校生・大学生の参加が申込者の約半分を占めていた。

④ **知ってよ！コロンビア** (36人)

静岡文化芸術大学学生とのコラボ企画第3弾。

日時 10月3日(土) 13:30~15:00

会場 Zoom および 多文化共生センター

講師 ロハス・アンヘラ

内容 ライフヒストリー紹介、コロンビア基礎情報、コロンビア観光及びクッキング動画上映

参加者 36人 大学生のほか、静岡県東部在住の高校生、インドに赴任中の会社員なども参加。

5. 担い手の育成：ボランティア活動支援事業（自主事業）

① **HICE ボランティアバンクの運営** (2,669人) (前年度 2,221人)

通訳・翻訳、日本語教育、ホームステイ、イベント、出前講師に関する市民ボランティアの活動を推進した。

＜ボランティアバンク登録人数＞ 6区分

出前講師ボランティア	96人
通訳・翻訳ボランティア	571人
日本語教師ボランティア	536人
ホームステイボランティア	341人
情報提供ボランティア	207人
イベントボランティア	918人

合計： 延べ2,669人

② **ホームステイ・コーディネート** (中止)

③ **ボランティア説明会**

情報提供ボランティアの方を対象に、近況報告と事業の説明会を開催した。

日時 10月1日(木) 13:00~15:00

10月17日(土) 10:00~12:00

会場 多文化共生センター

内容 事業案内・新規事業についての説明

参加者 18人

6. 担い手の支援：国際交流活動支援事業

① **多文化共生・国際交流推進事業費補助金の交付** (申請 32件確定 23件) (前年度 25件)

浜松市内で活動する多文化共生・国際交流関係団体を支援するため、多文化共生・国際交流推進事業費補助金を交付した。

(円)

No.	主催団体	対象事業	交付確定額
1	特定非営利法人日本語教育ボランティア協会	ジャボラ日本語教室	400,000
2	NPO法人AIPEACE	日本語及び日本社会に関する学習支援事業	474,000
3	NPO法人浜松日本語・日本文化研究会（にほんごNPO）	外国人住民に対する日本語学習支援「にほんご日曜教室」	250,000
4	NPO法人浜松日本語・日本文化研究会（にほんごNPO）	外国人住民に対する日本語学習支援「にほんご木曜教室」	264,000
5	中国文化交流会	中国人のための日本語勉強会	82,000
6	NPO法人浜松外国人子ども教育支援協会	外国につながる子供の保護者のための日本語教室	97,000
7	三ヶ日日本語教室	三ヶ日日本語教室	92,000
8	KSC子どもサポーターズクラブ	外国にルーツを持つ子どもたちへの学習支援	500,000
9	そらの会	放課後そらの会（学習支援事業）	300,000
10	龍の会	外国籍児童生徒への日本語教育及び学習補助支援	220,000
11	特定非営利活動法人ARACE	ARACE希望放課後教室事業	450,000
12	NPO法人フィリピンナガイサ	定住フィリピン人青年のための進路支援事業	150,000
13	わたぼうしグラウンドデザイン 浜松インターナショナルスクール	浜松インターナショナル グローバルリーダー育成事業	145,000
14	YACHAY	スペイン語読み書き教室YACHAY	410,000
15	GCC中国語教室	GCC中国語教室	164,000
16	PROJETO NASCENTE DO BRASIL	PROJETO NASCENTE DO BRASIL(ブラジルの子供たちへの母語文化支援事業)	73,000
17	(IIEC) Internatinal Institute of Education and Culture	Diversity Camp in 浜松 2020	53,000
18	NPO法人浜松日中文化交流会	国際交流いけばな体験	36,000
19	NPO法人浜松日中文化交流会	国際交流「茶道教室」	40,000
20	浜松市浜北日中友好協会	日中友好交流事業	60,000
21	HANDs (Hamamatsu and Davao Smile project)	浜松多文化共生音楽交流プロジェクト	37,000
22	ダイナムズ	ダイナムズ（スポーツ活動及び健全育成事業）	19,000
23	メディアプロジェクト・アンテナ	浜松ブラジルツアープロジェクト	1,000
合計			4,317,000

②天竜地域事業（230人）

■日本語教室（市委託：外国人学習支援センター事業）

期 間 4月5日～令和2年3月28日 日曜日の10:00～11:30 全36回

場 所 二俣協働センター他（天竜区二俣町）

内 容 会話クラス

受講者 登録者数 12人 参加者数 延べ202人
 国籍 インドネシア、ブラジル、タイ、ベトナム、中国、カナダ

■英会話教室（自主事業）

場所 二俣協働センター
 講師 フォーシーズンズ外語学院より派遣

コース	前期	参加者	後期	参加者
初級 (月) 10:00~11:30	6月1日~10月5日 全16回	6人	11月9日~3月22日 全16回	8人
上級 (木) 19:30~21:00	6月4日~10月1日 全16回	7人	11月12日~3月18日 全16回	7人
合計 28人				

■協働センターでのふれあいまつり参加（自主事業）

光明ふれあいセンター、二俣協働センターにて開催の予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止。

③セミナールームの活用（市委託：多文化共生センター事業）（6,291人）

浜松市多文化共生センターのセミナールームをオープンルームとして一般に公開するとともに、講座・セミナー等の事業活動に利用した。
 年間利用者数 6,291人

④多文化共生・国際交流活動支援事業（市委託：多文化共生センター事業）

■多文化共生活動団体への支援及び助言

- ・外国にルーツを持つ若者グループ（COLORS）活動支援
 就職応援セミナー（オンライン）1月31日（日）10:00~12:00
 ブラジル・フィリピン・ペルーにルーツを持つメンバーの体験談をトーク
 字幕（ポルトガル語、英語）をつけて定時制高校等に配信
- ・国際理解教育活動を進める市民グループ（はままつ国際理解教育ネット）の活動支援
 国際理解教育の担い手となる人材育成のための「国際理解教育ファシリテーター養成講座」（オンライン）の開催を支援。（4回）
 12月12日（土）、12月20日（日）、1月17日（日）、1月24日（日）
- ・フェアトレード推進の市民団体「はままつフェアトレードタウンネットワーク」の活動支援
 フェアトレードを推進する浜松市市民団体の定例ミーティング（月1回程度）の開催、イベント（オンラインセミナー）の開催支援。

■多文化共生活動者ネットワーク化事業 「補助金説明会&国際交流・多文化共生情報交換会」

情報交換会については新型コロナウイルス感染症拡大のため、中止。
 代替事業として、市民団体登録データベースを作成した。

7. 情報提供事業

① 機関紙 HICE NEWS の発行（自主事業）

当協会の活動内容や講座等を掲載。日本語、ポルトガル語、英語の三ヶ国語で発行し、HICE 会員や外国人児童生徒の保護者、外国人学校、協働センター等の公共機関に配布・設置した。
 発行部数：日本語版 1,900部 ポルトガル語版 2,200部 英語 900部 合計 5,000部
 発行回数：毎月1日発行（1月を除く） 年11回

②ホームページの運営（自主事業）

ホームページアクセス合計数 47,161 件

	日本語	ポルトガル語	英語	中国語
HICE	○	○	○	-
多文化共生センター	○	○	○	○
外国人学習支援センター	○	○	○	○

③Facebook の運用（自主事業）

会員日本語・ポルトガル語・英語の3言語併記によるFacebookを運用。その他、ベトナム語、スペイン語、タガログ語による「Consultation Hamamatsu」Facebookも別途運用し、多言語による情報提供を行った。

④HICE info メールによる情報配信（自主事業）

会員・ボランティア等に情報を配信。年間30回配信。

配信先 3,687人

⑤CIR NEWS の配信（自主事業）

国際交流員(CIR)による英語・日本語併記の文化紹介メールマガジンを毎月配信していたが、2020年4月より浜松市公式ホームページに「HAMA WAVE」として掲載されることになり、配信は停止。

⑥情報カウンターの設置（市委託：多文化共生センター事業）（3,621人）

外国人市民・日本人市民に対し、必要な情報を提供した。

延べ提供数	外国人	日本人	合計
	2,358人	1,263人	3,621人

事業報告の附属明細書

令和2(2021)年度事業報告には、「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、定款8条(2)に規定する事業報告の附属明細書は作成しない。